

にんにくの施肥コスト低減による所得向上

～土壌診断に基づいた施肥でにんにく畑の健康な土づくり～

【概要】

土壌診断に基づいた適正な施肥量を指導することで生産コストの低減を図り、生産者所得を向上させた。

【対象名】

十和田おいらせ農業協同組合
野菜振興会にんにく部会
(632名)

【背景・課題】

- ・にんにく栽培では、土壌診断を受けないままの慣行施肥の繰り返しにより過剰施肥となる傾向があった。
- ・1戸あたり栽培面積が大きくなると、施肥の過剰部分が生産コストを圧迫するようになった。

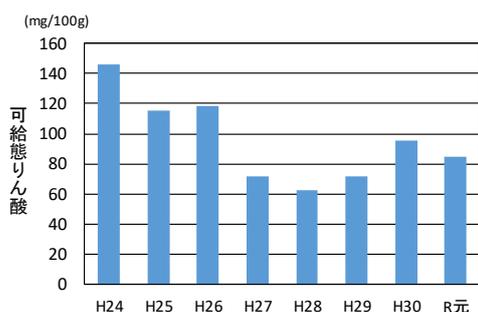


農業技術センターでの土壌分析

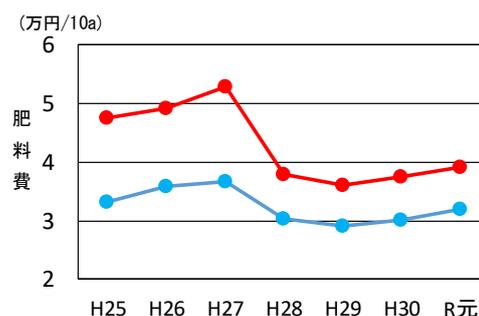
【取組の内容】

- ・JA十和田おいらせ農業技術センターでの土壌分析結果に基づき、不足成分のみを施肥することで、慣行施肥と同等の収量・品質が得られることを実証・確認し、適正施肥の啓蒙・指導を行った。
- ・土づくりが不十分なほ場では、りん酸、石灰資材の施用量と改良効果を検討しながら個別指導を行った。
- ・JAでは試験栽培を継続し、肥効と低コストを両立できる肥料銘柄を検討し、生産者に奨励した。

にんにく作付前土壌可給態りん酸



肥料費 (JA奨励肥料銘柄、赤線：最高、青線：最安)



10aあたりの施肥窒素量

	平成20年	平成23年以降	県施肥基準
施肥窒素量 (kg/10a)	30	28	25

【成果 (収益性アップ)】

- ・土壌診断結果に基づいた改良資材施用により可給態りん酸が適正レベルに改善され低コスト化が図られた。
- ・肥効と低コストを両立できる肥料銘柄を農業者に勧めることで施肥改善が図られた。
- ・10aあたり施肥窒素量も多肥傾向であったものが改善され、県基準に近付いた。